

「光」を切り口に、その表現の多様性を探る

企画展「プリズムー見えない光を捉えるアート」開催

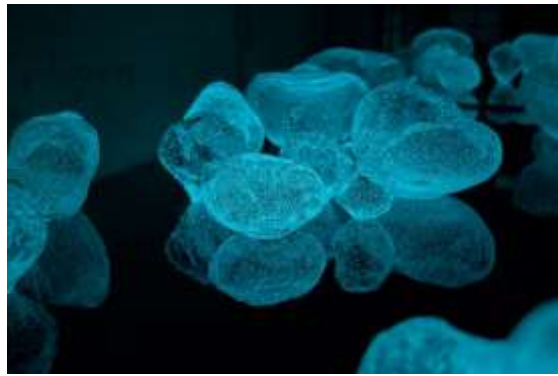
2024年4月27日（土）～6月23日（日）

姫路市立美術館 企画展示室（兵庫県姫路市本町68-25）

姫路市立美術館は、「光」を切り口に館蔵コレクションを中心に紹介することで、その表現の多様性を探る企画展「プリズムー見えない光を捉えるアート」を、4月27日（土）～6月23日（日）の期間、開催いたします。

私たちの周囲に当たり前のように存在する光は、人間の目に明るさを感じさせ、心を明るくさせ、生活にさまざまな恩恵をもたらしてくれますが、実体として捉えることはできません。プリズムを通して屈折、分散した光が虹光を生み出すように、私たちは何かを介して光を捉え、その諸相を知ることができます。目に見えないものを何とか自分なりに理解し、実感しようとするのは、人間が太古の昔から連綿と続けてきたことであり、アートもそういった営みの一つであると言えるでしょう。

本展では、現象としての光だけではなく、メタファーとしての光、そして光によってもたらされるもの一閃、影、時間、宇宙など一まで、姫路市立美術館のコレクションをベースに光の表現の多様性を紹介しながら、光とは？アートとは？を考えます。概要は次のページのとおりです。



佐々木類（招待作家）《水の記憶》（部分）2021年
撮影：Nik van der Giesen



松井紫朗《手に取る宇宙イメージ・ドローイング》2019年



立花江津子《芸術の曙》
1983年、撮影：森山雅智

● 出品作家（50音順）：

青野武市（招待作家）、秋岡美帆、ジェームズ・アンソール、尾田龍、佐々木類（招待作家）、杉全直、杉本博司、立花江津子、ポール・デルウォー、野村仁、ポール・ビュリー、ルネ・マグリット、松井紫朗、米田知子

● 出品点数：約90点

《報道関係者お問い合わせ先》

姫路市立美術館 広報事務局（TMオフィス内）担当：馬場・永井・西坂

MOBILE：090-6065-0063（馬場） 090-5667-3041（永井）

TEL：050-1807-2919 FAX：06-6231-4440 E-mail：himeji@tm-office.co.jp

姫路市立美術館ホームページ <https://www.city.himeji.lg.jp/art/>

開催概要

タイトル：企画展「プリズム―見えない光を捉えるアート」

会 期：2024年4月27日（土）～6月23日（日）

休館日：月曜日（ただし、4月29日（月・祝）・5月6日（月・祝）は開館）、4月30日（火）、5月7日（火）

開館時間：10:00～17:00（入場は16:30まで）

会 場：姫路市立美術館 企画展示室（姫路市本町68-25）

観 覧 料：一般 700（500）円、大高生 400（200）円、中小生 200（100）円

※（ ）内は20名以上の団体料金

主 催：姫路市立美術館

協 力：アートコートギャラリー

後 援：朝日新聞姫路支局、NHK神戸放送局、神戸新聞社、産経新聞社神戸総局、サンテレビジョン、
播磨時報社、播磨リビング新聞社、姫路ケーブルテレビ、姫路シティFM21、毎日新聞姫路支局、
読売新聞姫路支局、ラジオ関西 ※50音順

WEBサイト：姫路市立美術館 <https://www.city.himeji.lg.jp/art/>

一般お問合わせ：姫路市立美術館 電話 079-222-2288

関連イベント

▼学芸員によるギャラリートーク

本展担当学芸員が展示の見どころなどをご紹介します。

日 時：第1回 5月4日（土曜日）午後2時30分から午後3時10分まで

第2回 5月26日（日曜日）午後2時から午後2時40分まで

第3回 6月23日（日曜日）午後2時から午後2時40分まで

場 所：企画展示室（集合は展示室入口）

定 員：20名 当日先着順

参加費：無料 ※ただし「プリズム―見えない光を捉えるアート」の観覧券が必要

▼絵本よみきかせとミニ・ギャラリートーク

絵本のよみきかせの後、ミニ・ギャラリートークを行ないます。

日 時：第1回 5月5日（日曜日）午前11時から午前11時40分まで

第2回 5月12日（日曜日）午前11時から午前11時40分まで

場 所：第1回 ホール階段ステインドグラス前

第2回 企画展示室

絵 本：第1回 『じぶんだけのいろ』（レオ・レオ二作、谷川俊太郎訳）

第2回 『お月さまってどんなあじ？』（マイケル・グレイニエツ文・絵、いずみちほこ訳）

対 象：子どもから大人までどなたでも

定 員：各回20名 当日先着順

参加費：無料 ※ただし第2回（5月12日）は「プリズム―見えない光を捉えるアート」の観覧券が必要

▼ワークショップ「色ガラスで作るモザイクアート」

ステインドグラスの制作過程でできる色ガラスのかけらを組み合わせてオリジナル作品を作りましょう。

日 時：6月16日（日曜日）午後2時から午後4時まで

講 師：立花江津子氏（ステインドグラス作家、本展出品作家）

場 所：2階講堂

定 員：25名 参加申込み多数の場合は抽選

対 象：子どもから大人までどなたでも

参加費：1,000円（材料費）

申込み方法：下記の参加申込みフォームへアクセスし、申し込んでください。申込み締切りは、6月6日（木曜日）まで。

参加申込みフォーム <https://www.e-hyogo.elg-front.jp/hyogo/uketsuke/form.do?id=1712115533333>

展示作品（一部）



青野武市（招待作家）《茄子紺被蛇の目文鉢》
1986年 姫路市書写の里・美術工芸館蔵



杉本博司《日本海、隠岐》1987年
(c)Hiroshi Sugimoto / Courtesy of Gallery Koyanagi



松井紫朗《手に取る宇宙 イメージ・ドローイング》2019年



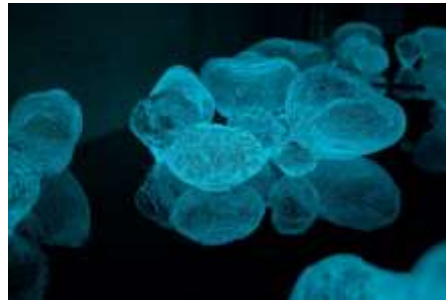
秋岡美帆《そよぎ》1986年



ルネ・マグリット《あの大きな鳥たちは宝島の鳥だ…》
(『マグリットの落とし子たち』より)、1968年



野村仁《‘moon’score:真空からの発生》
1980-1984年



佐々木類（招待作家）《水の記憶》（部分）2021年
撮影：Nik van der Giesen



立花江津子《芸術の囀》1983年
撮影：森山雅智

本展のみどころ

1. 「光」をテーマに、姫路市立美術館コレクションの新たな魅力を発信

知覚できる物理的な光、闇と対をなすメタファーとしての光、光の現象から生まれた時間概念や宇宙など、光の諸相を所蔵作品を通して紹介します。収蔵作家でもあり現在も旺盛な制作活動を行なっている立花江津子（ステインドグラス）と松井紫朗（彫刻）からの借用作品、さらに、ガラスを素材とする作家2名（青野武市、佐々木類）を迎え、所蔵作品に異なる角度から文字通り「光」をあてます。工芸から現代美術まで、ジャンルを超えた多様な表現をご覧ください。

2. 郷土ゆかりの作家たちの優れた表現を紹介

尾田龍、杉全直といった戦前戦後の前衛作家作品から、秋岡美帆、米田知子の写真作品、そして昨年惜しまれつつ他界した野村仁のインスタレーション作品など、姫路および兵庫県ゆかりの作家たちの優れた表現にもご注目ください。特に、グラヴィール（円盤状のグラインダーでガラス表面に装飾を施す技法）において卓越した技術を持っていたガラス作家・青野武市（1921-2011年）の作品29点（姫路市書写の里・美術工芸館所蔵）は必見です。

3. 旧姫路市文化センター緞帳の保存活用事業の成果を披露

約50年の間、芸術文化の舞台として市民に親しまれてきた姫路市文化センター。2021年に閉館となった同センターの、尾田龍（1906-92年）と杉全直（1914-94年）による緞帳が展示公開できる形に生まれ変わりました。本展ではその緞帳資料全点を一挙公開します。

《報道関係者お問い合わせ先》

姫路市立美術館 広報事務局（TMオフィス内）担当：馬場・永井・西坂

MOBILE：090-6065-0063（馬場） 090-5667-3041（永井）

TEL：050-1807-2919 FAX：06-6231-4440 E-mail：himeji@tm-office.co.jp

姫路市立美術館ホームページ <https://www.city.himeji.lg.jp/art/>